



「(仮称) 成城脱炭素地域づくり計画」 検討対象区域にお住いの皆さまへ

『脱炭素(省エネ・再エネ)』×『地域づくり』 = 地域の魅力と価値を向上



「成城脱炭素地域づくり」では、脱炭素だけでなく、みどりの保全や安心・安全などの地域づくりにも取り組み、地域の魅力と質の向上に貢献する取り組みを目指しています。



取組み検討に向けてのアンケート調査にご協力頂き、ありがとうございました。
ご回答結果の一部をご紹介します。

【9/25 ~ 10/15 回答分 (有効回答 : 206 件)】

Q.どのような場合に、環境負荷の少ない電力プランを利用したいですか？



ANSWERS

1. 電気料金が同等か安くなる 139 (68.1%)
2. 環境問題に貢献できることが分かる 136 (66.7%)
3. 手続きが簡単 105 (51.5%)

Q.期待する支援や取組みは何ですか？



ANSWERS

1. 省エネ機器導入に対する助成の充実 155 (75.2%)
2. 電気自動車 (EV) の充電設備の整備 99 (48.1%)
3. 気候変動に関する情報提供・啓発 97 (47.1%)

Q.太陽光パネルや蓄電池の設置を検討するときに気になることは何ですか？



ANSWERS

1. 初期コストがかかる 124 (64.2%)
2. 維持費がかかる 101 (52.3%)
3. 借家や集合住宅で設置できない 55 (28.5%)

Q.成城地域で将来に向けて取組むべきことは？



ANSWERS

1. 自然・みどりあふれる地域づくり 169 (82.0%)
2. レジリエンス強化 (防災・減災) 156 (75.7)
3. 快適な住環境の維持 147 (71.4%)

アンケート結果を参考に、取組み内容や支援策を検討していきます。

区 HP のトップページから検索

その他の結果や自由意見は、区ホームページに掲載しています。

205584



また、引き続き、ご回答・ご意見も受け付けておりますので、ご協力よろしくお願いたします。

＜お問い合わせ＞



世田谷区 環境政策部 環境計画課 気候危機対策行動推進担当

電話 : 03-6432-7135 (直通) FAX : 03-6432-7981



成城地区における「脱炭素地域づくり」をより積極的に進めるため、一部区域を対象として『脱炭素先行地域』への応募を検討しています。

「脱炭素先行地域」とは…

国では、地域特性等に応じた先行的な取組みの道筋をつけ、2030年度までに実行することで、脱炭素と住民の暮らしの質の向上を実現し、各地の創意工夫を横展開することを目的に、意欲的な脱炭素事業に関する提案を募集、審査により「脱炭素先行地域」（概ね100か所程度を予定）として選定した地方自治体の脱炭素への取組みの支援を行っています。

区では、脱炭素地域づくりの取組みを加速するため、脱炭素先行地域の応募要件や取組みの効果などをふまえ、成城学園の正面として最初に分譲された2丁目や成城みつ池周辺など地区内の一部区域を「重点エリア」として「脱炭素先行地域」に応募することを検討しています。

■脱炭素先行地域として応募を検討中の地区（検討地区）

成城2丁目1～32番、成城2丁目41番、成城3丁目4～14番、成城3丁目22～26番、成城4丁目1～31番、成城5丁目1～26番、成城6丁目17～33番

- ▶ 検討地区の皆さまには、脱炭素先行地域への応募や取組みへの参加意向に関するアンケート、説明会の実施を予定しています。皆様のご意見を伺いながら、具体的な事業を検討してまいります。
- ▶ 住宅に対する規制や取組み義務を求めるものではありません。



太陽光発電のメリット／よくあるギモン



成城地区の再生可能エネルギーの主力となる住宅用太陽光発電設備についてご紹介します。

経済性

毎月の光熱費が削減できます

太陽光で発電した電力を利用するので、毎月の電気料金が削減できます。東京都の補助金を活用すると約8年*で設置費用を賄えます。

防災力

停電時に電気が使えます

停電時にテレビやスマートフォンなどで情報収集・安否確認ができます。蓄電池と組み合わせれば、より防災力が高まります。

環境

CO2削減に貢献します

4kWの太陽光発電によるCO2削減量は、スギ林2,000平方メートル分（約200本分）の吸収量に相当します。

コスト (設置・メンテナンス)

初期設置費用をゼロにできるサービスを活用

リース、屋根貸しなど第三者所有モデルでは、メンテナンスも事業者が実施します。東京都では、補助金相当額が還元される仕組みがあります。

リサイクル ・廃棄

太陽光パネルはリサイクル可能です

リサイクル施設にて、アルミ枠、ガラス、セル等の材料毎に分離され、新たな製品の原料として再利用されます。首都圏でも複数の施設が稼働しています。

LCA ライフサイクル

発電開始1～3年でライフサイクル消費エネルギーを回収

原料採掘、設備や保守部品製造、設置、使用後処理や運搬などで投入されたエネルギー量は、設置設備で生産されるエネルギー（電力）で回収できます。

※積算根拠など、詳しくは、「太陽光ポータル - 東京都環境局」まで

東京都 太陽光ポータル

検索

